

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画	令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分			評価区分			
<p><b>2. 内部質保証</b></p> <p><b>【計画3】(企画部)</b> 内部質保証の方針に基づき、本学における内部質保証システムを構築するため、「内部質保証推進会議」の機能強化を図る。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 「内部質保証推進会議」が、全学的な内部質保証システムの要として機能するためにその権限と責任を明確化し、継続的にその機能強化を図る。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・IR機能強化の状況、各種データの分析状況</p>	Ⅲ	<p>・IR機能の強化を図るため、IR推進室においては次のような取り組みを行ったところである。</p> <p>1). 学生の学修に関する実態調査アンケート、授業評価アンケートには重要な定点調査であるところ、令和4年度は、分析結果を学生に還元する「IRNews学生版」の刊行ができなかったため、このデータに対する意見収集を行えていない。令和5年5月までに「学生版」を公表予定なので、早めに意見収集を行うようにしたい。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・学生の学修に関する実態調査アンケートの回答率（継続）59.2% ・授業評価アンケートの回答率（継続）62.7%</p> <p>2). ディプロマ・ポリシーの運用状況等について、IR推進室運営会議等の関係会議で報告した。</p> <p>・学修成果の可視化の一環としてキャンパスプランの改修に取り組み、とくに出席状況を学生及び保証人が把握しやすくする機能を実装した。令和5年度から段階的に運用予定である。</p> <p>・九州大学で開催されたIR担当者会議に室員2名が出席し、情報交換を行った。その後、近隣大学と連携し、IR推進室同士の情報交換会を実施した。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・アセスメント・プランに基づく学修成果の定量的評価指標（ディプロマ・サプリメント）分析結果の報告件数（新規）年1回 ・他大学研修会や高等教育に関する学会・研究会における活動報告件数 年1回</p>	<p><b>【年度計画3】</b> 「内部質保証推進会議」の権限と責任を明確化し、その機能強化を図るため、部局の現状等を更にエビデンスに基づき分析・評価できるよう、「学長戦略本部」と連携しIR機能の強化を図る。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・IR機能強化の状況、各種データの分析状況</p>	Ⅲ	<p>・IR機能を強化するため、各学部・学会の教員から構成している「IR推進室運営会議」のメンバーについても、他大学IR推進室との交流の場に参加できるようにした。具体的には9月下旬に他大学のIR推進室に本学向け研修会を開催いただき、同メンバーの希望者に参加いただいた。</p> <p>・2023年度に大学ビジョンにDX推進が位置づけられたことを受けて、学修基盤推進室及びDXマネージャーの主導により「ICTスキルチェックリスト」が策定された。同室とも連携し、教員のICTスキルもストラクチャー指標の一つとして有効活用していくこととした。</p> <p>・学生の学修に関する実態調査アンケートの回答率（継続）69.9% ・授業評価アンケートの回答率（継続）70.3%</p>		

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画	令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
	評価区分			評価区分	評価区分			
<p><b>【計画4】(学長戦略本部・企画部)</b> 教育の質保証の観点から、年度計画を着実に推進するとともに、自己点検・評価及び外部有識者による評価を行い、その結果を改善・充実に反映させる。また令和7年度に受審する大学基準協会の認証評価に適切に対応する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 年度計画を着実に推進するとともに、令和7年度に受審する大学基準協会の認証評価に適切に対応するため、計画的に準備作業を進める。 <b>「評価指標」</b> ・令和7年度に受審する大学基準協会の認証評価の準備、評価結果</p> <p><b>【計画5】(企画部)</b> 内部質保証の状況を、所要の学内会議に報告した上で、外部有識者等の意見等を踏まえ、本学の教育研究活動等の改善・向上を継続して推進するとともに、内部質保証に関する情報を学内外に公表し、大学としての説明責任を果たす。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 毎年度、内部質保証の状況を、外部有識者等が委員を務める外部評価委員会、大学経営会議、理事会・評議員会等の学内会議に報告し、会議での意見・提言等を踏まえて、本学の管理運営及び教育研究活動等の改善・向上を継続して推進する。また、点検・評価の結果等を含め、内部質保証に関する情報をホームページにおいて公表する。 <b>「評価指標」</b> ・外部評価委員会等の開催状況及びホームページにおける公表状況</p>	Ⅲ	<p>・平成30年度に大学基準協会による認証評価を受審した結果、是正勧告2件、改善課題5件の提言を受けたところであるが、内部質保証に責任を負う全学組織である「内部質保証推進会議」において、提言の内容等を精査し改善を図ることとし、その改善結果を「改善報告書」として令和4年7月末に大学基準協会に提出した。 ・令和5年1月20日付で、大学基準協会から提出済みの「改善報告書」に対し、「改善報告書検討結果(委員会案)」が示され、概ね大学の取組は評価されたが、 1. 是正勧告では、医療保健学部医療栄養学科、医療情報学科等における学生受け入れに関する定員管理の問題は、今後も更なる改善に努めること 2. 改善課題については、医療保健学研究科における学位授与方針の問題の改善や、財務についての財政基盤の確保に努めることとの評価を受けたところであり、令和7年度の認証評価の中で今回の評価分も含め、さらなる改善に努める必要がある。</p>	Ⅲ	<p><b>【年度計画4】</b> 年度計画を着実に推進するとともに、令和7年度に受審する大学基準協会の認証評価に適切に対応するため、計画的に準備作業を進める。 <b>「評価指標」</b> ・令和7年度に受審する大学基準協会の認証評価の準備、評価結果</p>	Ⅲ	<p>・令和7年度に受審する大学基準協会の認証評価に適切に対応するため、令和5年度から「教学マネジメントチェックリスト」に基づく点検・評価を本格実施することとして、令和5年10月25日に開催した「東京医療保健大学を語る会」において、「教学マネジメントチェックリストに基づく点検・評価の実施に向けて～具体的な取組の視点について～」をテーマとし、活発な意見交換を行った上で、「令和5年度教学マネジメントチェックリストに基づく自己点検・評価」については、部局内で「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」ごとに令和6年5月末までに実施し、「学位プログラムレベル」について報告書を作成した上で、企画部宛提出することとした。【詳細は、計画2を参照】 ・令和5年11月20日に大学基準協会がWEBにて開催した「第4期機関別認証評価に関する説明会」に、亀山学長、松浦事務局長他企画部職員が参加し、次期認証評価に関する方向性等について学ぶ機会を得た。この内容については、令和6年1月17日開催の内部質保証推進会議において報告した上で、1月18日付で学内関係者に周知情報共有を行うこととした。</p>		
	Ⅲ	<p>・令和3年度に係る自己点検・評価については、「令和3年度点検・評価報告書」として取りまとめた上で、令和4年5月10日開催の内部質保証推進会議及び大学経営会議及び5月22日開催の理事会・評議員会において審議・承認された後、9月28日開催の「外部評価委員会」において、事前に提出いただいた委員からのご意見等に対する回答・対応等を中心に質疑応答を行ったところであり、委員からご指摘いただいた点は次年度の計画等に反映することで、教育研究活動等の継続的な改善等を図ることとした。 ・「令和3年度点検・評価報告書」は大学HPに公開している。</p>	Ⅳ	<p><b>【年度計画5】</b> 内部質保証の状況を、外部有識者等が委員を務める外部評価委員会、大学経営会議、理事会・評議員会等の学内会議に報告し、会議での意見・提言等を踏まえて、本学の管理運営及び教育研究活動等の改善・向上を継続して推進する。また、点検・評価の結果等を含め、内部質保証に関する情報をホームページにおいて公表する。 <b>「評価指標」</b> ・外部評価委員会等の開催状況及びホームページにおける公表状況</p>	Ⅳ	<p>・令和4年度に係る自己点検・評価については、「令和4年度点検・評価報告書」として取りまとめた上で、令和5年5月10日開催の内部質保証推進会議及び大学経営会議及び5月24日開催の理事会・評議員会において審議・承認された後、令和5年10月20日開催の「外部評価委員会」において、事前に提出いただいた委員からのご意見等に対する回答・対応等を中心に質疑応答を行ったところであり、委員からご指摘いただいた点は次年度の計画等に反映することで、教育研究活動等の継続的な改善等を図ることとした。 ・「令和4年度点検・評価報告書」は大学HPに公開している。</p>		

## 令和5年度第7回内部質保証推進会議議事要録

開催日時 令和6年1月17日(水) 11:40~12:00  
出席者 亀山学長、坂本副学長・医療保健学部長・看護学科長・医療保健学研究科長、  
小西副学長・医療保健学部医療栄養学科長・IR推進室長、  
石原副学長・医療保健学部医療情報学科長、  
大島副学長・看護学研究科長、  
山西副学長・東が丘・立川看護学部長・東が丘看護学部長、  
長田副学長・立川看護学部長、  
宮本副学長・千葉看護学部長・千葉看護学研究科長、  
八島副学長・和歌山看護学部長・和歌山看護学研究科長、  
田村大学経営会議室長、松浦事務局長

## ○審議事項

1. 効果的・効率的な教育課程の運営のために必要な教職員の業務内容の整理・点検の実施について

事務局から、令和6年度に、各学科・研究科においてカリキュラムの見直しに合わせ、教職員の採用等を行う予定の各部局については、2月21日の内部質保証推進会議においてその内容等について審議するため、①カリキュラム変更の理由、②カリキュラム変更に伴う教職員の採用等の情報をとりまとめ、1月31日までに企画部まで提出すること等について説明の後、審議を行い本件は了承された。

## ○報告事項

1. 大学基準協会認証評価説明会の件

事務局から、さる11月20日に参加した大学基準協会主催の「第4期機関別認証評価にかかる説明会」における第4期の改正点等の説明があり、この内容について学内共有すること、及び昨年3月に大学基準協会からの改善報告書検討結果に示された各部局に係る改善事項について改めて確認し、令和7年度に受検する認証評価に適切に対応するためにも、来年度中に課題解決が必要である旨の説明の後、後日これらの関係資料を各部局長・各事務部長等に送付するので、部局内で情報共有されたい旨報告があった。

以上

松浦 晃幸

---

差出人: 企画部代表  
送信日時: 2024年1月18日木曜日 15:36  
宛先: 坂本 すが; 小西 敏郎; 石原 照夫; 大島 久二; 山西 文子; 長田 恵子; 宮本 千津子; 八島 妙子  
CC: 青木 一恵; 倉橋 孝佳; 眞弓 彰久; 富田 素; 市原 俊英; 守道 賢次; 稲田 高規; 田中 和之; 諸田 清; 中田 太一; 小峰 誠治; 内藤 洋一; 井上 達也; 武田 正秋; 荻原 雄一; 大塚 智久; 企画部代表  
件名: 大学基準協会 令和7年度認証評価説明会等に係る関連資料について  
添付ファイル: 大学基準協会 令和7年度認証評価関連資料.zip

各位

お世話になっております。

昨日の内部質保証推進会議にてご報告しました

「大学基準協会 令和7年度認証評価説明会関連資料」につきまして、  
昨日ご報告した資料に加え、その他関連資料（抜粋）をお送りいたします。  
各学科等内で適宜共有いただけますと幸いです。  
どうぞよろしく願いいたします。

<添付資料>

※①⑥⑧の資料は、1/17の内部質保証推進会議の会議資料として配布したものです

- ①第4期認証評価説明会 プログラム
- ②第4期機関別認証評価の基本的な方向性について
- ③大学評価、短期大学認証評価の目的・特徴、基準等について
- ④第4期機関別認証評価の体制・プロセス・準備について
- ⑤「大学基準」及びその解説
- ⑥評価項目・評価の視点（大学）
- ⑦大学評価ハンドブック<11月説明会版>
- ⑧（参考）東京医療保健大学改善報告書検討結果

事務局長 松浦  
企画部 関口

## 令和5年度 東京医療保健大学外部評価委員会議事要録

開催日時	令和5年10月20日(金) 14:00~15:30
場 所	五反田校舎本館 G210・211 (オンラインによるハイブリッド開催)
出席者	今村委員、高戸委員、盛田委員、 田村理事長、亀山学長、田村副理事長、 坂本医療保健学部長・同学科長・医療保健学研究科長・助産学専攻科長、 小西医療保健学部医療栄養学科長、石原医療保健学部医療情報学科長、 大島看護学研究科長、山西東が丘看護学部長・同学科長、 長田立川看護学部長・同学科長、清水千葉看護学部看護学科教授、 八島和歌山看護学部長・同学科長・和歌山看護学研究科長、 佐々木医療保健学部看護学科教授・医療保健学研究科教授 菅原医療保健学部看護学科教授・医療保健学研究科教授、 瀬戸学長戦略本部メンバー・医療保健学部医療情報学科教授、 松浦事務局長・企画部長、稲田教務部長、田中中学生支援センター長、 諸田研究協力部長、中田総務人事部長、小峰総務部長、内藤人事部長、 井上システム担当部長、武田経理財務部長、荻原入試広報部長、 大塚入試事務部長、青木五反田事務部長、倉橋世田谷事務部長、 眞弓東が丘事務部長、市原千葉事務部長、守道和歌山事務部長
欠席者	山本委員、宮本千葉看護学部長・同学科長・千葉看護学研究科長、 富田立川事務部長
陪席者	事務局関係職員

1. 初めに、亀山学長から本日の出席者について紹介があった。
2. 次に、令和4年度東京医療保健大学点検・評価報告書における教育研究活動等の取組状況及び課題等に関し、主として「第4章 教育課程・学習成果」の項目について、資料に基づき外部評価委員からいただいた意見等に対する大学の対応を本学担当者から説明を行った後、種々意見交換を行った。

委員からあらかじめいただいた書面以外での主な質問・意見等は次のとおりであった。

【今村委員（奈良県立医科大学公衆衛生学講座 教授）】

○貴学においては大変努力していると思っており、まずその点については高く評価している。

ただ、日本最大の看護師養成大学として今後リーダーシップをとっていかなければならないという面からも、今後いい方向に進んでいくようにさらに厳しく頑張っていただきたい。

人口の変化をみると、昨年度の出生数は77万人で、女性の数は40万人未満となった。

現在新しく看護師になる方が約7万人いると予想され、これは全体の15%を超えている可能性がある。今後、これらの若い世代が18歳になる頃には看護師の比率が増加し、日本としての適切な状況かどうか問題視されている。今後より一層出生数が減っていく中で、貴学は最大の看護師養成校として一体どのような役割を果たしていくのかということは考えていかなければいけないテーマだと思う。

【高戸委員（JR 東京総合病院 名誉院長）】

- 科研費採択率の低さについてご指摘があったが、私が大学で指導をしていた時は、医局員から提出される申請書をすべて自分でチェックしており、その結果全学の中でもトップクラスの採択件数であった。採択件数を上げるコツは、教授やトップに立つ人が指導することであると思う。科研費は書き方がものすごく大事で、いかに見やすく魅力的に描くかということが重要で、その内容をチェックすることは指導者の第一の責任だと考える。一度やり方をマスターすれば連続して採択されるコツがわかるので、ぜひ一件も落とさないという覚悟のもと臨んでもらいたいと思う。
- ある大学では、少子化に対して不妊治療に必要な胚培養士が足りないという社会のニーズに対応するため、胚培養士の養成を始めるという話を聞いた。最近美容系の分野においても脂肪幹細胞の静脈注射や再生医療に対する若返りといった内容に多くのクリニックが参入しているが、そちらの分野では細胞培養士が不足している。美容医療はものすごい勢いで世の中にニーズが広がっているので、いいか悪いかは別としてそういうところに目をつける考えには感心した。貴学においても、将来発展しそうなところに目をつけてニーズがあるところをよく考えて経営されるのも大事かもしれないと思う。一方で、近年国立大学の優秀な学生でも美容クリニックにどんどん就職していて、その数は大学病院に入る学生よりもはるかに多いという話を聞く。おそらく収入面や勤務環境等を比較して選択しているのだと思うが、志ある医者、看護師を目指す学生が少なくなるのではないかと憂慮している。

【盛田委員（東邦大学 医学部長）】

- 貴学はPDCA サイクルをきちんと回し、前年度の課題を着実に改善しようとしており、完璧ではないながらも努力する姿勢を感じる。同じく私学として留意しているところは、母校愛である。卒業生がいかに母校を慕ってくれるか、たくさん学科がある中で共通の認識があるか。それは建学の精神や教育の理念を皆で共有しているかということにかかっていると思う。先ほど理事長や学長のリーダーシップという言葉が出ていたが、ぜひそれを発揮していただき、全員が建学の精神と教育の理念を共有しそれを下に落としていくということで、私学の厳しい時代を生き残っていただきたいと思う。

以上をもって、15：30 に閉会した。